

校長室だより

緑 鷹

第 27 号

令和7年10月14日(火)

[発行者] 三苫 淳一

スローガン: ○凡事徹底で生活の基礎固め~基本的生活習慣のレベルアップ

○全力燃焼~過程(プロセス)重視

今年度最後の中体連行事である「駅伝競走大会」が10日(金)三隈中学校裏をスタート・ゴールとする川沿いのコースで行われました。生徒数の減少に伴い出場できない学校があったり、合同チームでの参加があったりする中、本校は男女ともに単独校チームとして参加できています。複数のチームを参加させている学校もあり、女子11チーム、男子16チームでの大会でした。結果は女子5位、男子11位でした。女子は昨年の躍進1位からさらにタイムを伸ばし躍進2位でした。

当日私は、走路監察としてコースにいましたが、目の前を走りぬけていく選手は、学校に関係なくとてもかっこ良かったです。「一生懸命はかっこいい」と常々思っていますが、まさにその言葉どおりでした。さらに、一生懸命は感動も与えてくれます。応援に来られていた各校の保護者も、自分の学校の生徒だけでなく選手全員を応援するのは、一生懸命さが伝わっているからなのだと思います。今回、女子のレース、男子のレースともに周回遅れのチームが出ましたが、大きな差がついているにも関わらず、最後のチームが通過するまで見守り声をかけてくださっていた応援の風景にも感動しました。

長距離走においては、練習や本番で常に葛藤(自分との戦い)があります。例えば、「きついけどもう少し頑張ろう」という気持ちと「きついからちょっとペースを落とそう」という気持ちの戦いです。この勝負の行方は本人にしかわかりませんが、この葛藤に意味があります。体調不良等のアクシデントを除き、この葛藤がタイムに直結します。とても分かりやすいので、内省の材料になります。これが学びとなり成長につながると思っています。そして、今回の学びを他の活動に活かしてもらいたいと切に願っています。

出場できなかった生徒は、悔しい思いを抱えながらも選手のサポート役として動いてくれました。練習や当日の頑張りに対し参加した生徒全員に拍手を送ります。

9年生 木村 優吾くん

僕は駅伝大会までほぼ毎日走っていました。練習や試走では出せなかったタイムが本番では出せました。今年の駅伝は昨年より頑張れたので達成感を感じました。ここで得た忍耐力を受験勉強にも活かしていくこうと思います。

9年生 河津 優心さん

駅伝大会での目標は「前にしっかりついていくことと「ペースを落とさない」ことでした。折り返しの前に1チーム追い越すことができました。練習の時に出せなかったタイムを出せたので良かったです。女子は58秒縮めて躍進も2位だったので嬉しかったです。

8年生 木下 愛美さん

普段の練習では足が痛かったり、きつかったりして途中で歩くこともありました。最後まで諦めずに走りました。タイムが縮むこともあってとても嬉しかったです。選手には選ばれませんでしたが、みんなの応援をしっかりすることができました。最後まで諦めずに頑張って走っている姿がとてもかっこよかったです。

8年生 栗野 武美くん

僕は本番で走ることはできませんでした。でも駅伝の練習は意味のあるものになりました。練習では疲れたり、体が痛かったりして調子が出ないことも多々ありましたが、諦めずに続けられたから心がとても強くなった気がします。来年は本番でリベンジできるように頑張ります。



8年生 渡辺 百華さん

初めての駅伝大会でした。練習はきつかったけど最後まで頑張りました。試走はいつもとタイムは変わりませんでした。当日はとてもドキドキしてうまく走れるか心配だったけど。練習や試走より速く走ることができました。来年は今よりもっと頑張ります。

7年生 河津 斗季くん

夏休みから始まった駅伝練習でした。はじめの方は僕もきつかったし、みんなきつそうでした。でも途中から質と量をどっちもこなしていい練習ができました。本番では補員も選手も一丸となって戦いました。来年はリベンジを果たすべく頑張りたいです。

7年生 木村 武輝くん

駅伝はあまり興味がなく、練習もきつくて大変だと思っていました。でもタイムが上がってくると楽しくなってきてどんどん意欲的になれました。本番では「タイムを更新するぞ」という思いで走りました。気温が高い環境でしたが、タイムを更新することができました。来年も出場できるように頑張ります。